

韓国環境部プレスリリース 2020年2月27日付

## 京畿道と江原道の野生いのししから ASF ウイルス検出（野生いのしし 264-272 例目）

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do?pagerOffset=0&maxPageItems=10&maxIndexPages=10&searchKey=&searchValue=&menuId=286&orgCd=&boardId=1337265&boardMasterId=1&boardCategoryId=&decorator=>

□環境部所属国立環境科学院(院長チャン・ユンソク)は、2月26日に江原道（カンウォンド）華川郡（ファチョンゲン）上西面（サンソミョン）および華川邑（ファチョンウプ）、京畿道（キョンギド）漣川郡（ヨンチョンゲン）百鶴面（ペツカンミョン）および旺澄面（ワンジンミョン）で発見された野生いのしし死体9個体から ASF ウイルスが検出されたと2月27日明らかにした。

□国立環境科学院は2月27日死体9個体で ASF ウイルスを確診と結果を関係機関に通知した。これで華川郡（ファチョンゲン）102件、漣川郡（ヨンチョンゲン）82件、坡州市（パジュシ）66件、鉄原郡（チョルウォンゲン）22件、合計272件の野生いのしし ASF 陽性事例となった。

○野生いのしし ASF 標準行動指針により試料採取後現場消毒と共に死体を処理した。

□国立環境科学院は「今回陽性となった死体は、既存の感染個体発見地から100m～1.4kmの距離で、すべて広域フェンスの中で発見され、この地域では感染死体がさらに出てくる事ができて徹底的に搜索しているだと明らかにした。

以上